

2016年12月2日

株式会社ふくしねっと工房創立10周年記念連続公演企画にお越しになったみなさんへ

有限会社しえあーど NPO 法人地域生活を考えよーかい

李 国本 修慈

ふくしねっと工房10周年!おめでとうございます!!。今回、私(なんぞ)を船橋にお呼びいただきありがとうございます。船橋なのに習志野台??と、少し戸惑いはあるのですが^^;、ここいらに来ると奥華子さんに出会えるのかしら?(けっこーファンです^^;)とワクワクしたり、実は私にとって思い入れのある(と言いますか、とってもお世話になった方々のいらっしやる)地域でして、とって喜んでいきます。

今回は~障害者自立支援法施行から10年・激動の<新時代>を切り開いてきた経営者たちの10年の軌跡~ということなのですが、私的には(ほとんど)切り開いてきた感は無くて、むしろ時代に翻弄され続けてきたなあ…というのが実感です。

ですが、「激動」という言葉は、まさにそうだなあと思ったり、振り返るとホントにスゴイ(あるいは酷い?^^;)時代でもあったなあ…と思ったり、それでも捨てたもんでも無い(と思う、あるいは思いたい)「今」に繋がっている訳ですから、この「新時代」の昔と今とこれからをみなさんと一緒に考えていければと思ったりしています。

さて、私のお話しのテーマは「地域生活を考えよー!」ということで、勢いを持って前向きなお話しをと思うのですが、なかなかそうも成り難い(鳴り難かった)この十数年…とも感じてしまい…、なのですが、私の所属する法人名のひとつは「地域生活を考えよーかい」といまして、まさに十数年前に勢いを持って(たぶん)名付けた法人名でもあります。その際の思いを振り返ると、そのまんまの「地域の生活」を「考える会」という意味。それから「一緒に・共に」「考えよう」という思い、更に「考えよかえっ!」と、ちょっぴり怒った感じ(誰にやねん?ですが、自らも含んだ諸々に対してということだったと思います)を込めたつもりです。

そんな風に私が「考えよー」等と思ったきっかけは、たぶん(間違いないと思います)それまで(私が24~25歳位だった頃に感じたのだと思います)に全く知らなかった生活様式(?)に出会ってしまったからだと思います。当時、私には衝撃的だった生活様式=「入所生活」あるいは「入院生活」で暮らされる方々の一方では「ノーマライゼーション」だとか「地域生活支援」等という言葉が対極あるいはアンチテーゼの様に拮抗し始めました(ね^^;)。

もちろん(?)私は(も?)「ノーマライゼーション」や「地域生活支援」等という言葉(恰も)旗印としていたように思います(当時は)。それから十年、十数年、いろんなことが起こり、いろんなことを感じ、考えてきたこと等をぜひみなさんとお話したいものです。

私に関わらせていただく(いただいた)方々の中には、命そのものを繋ぎとめておくことも難しい方が幾人もいらっしやいまして、毎年数名あるいは十数名の方とのお別れを体験してきました。そんな際に思うのは、ありきたりながら「悔しみ」「悲しみ」であるのですが、もうひとつ、「どうやったん?」と(けっこう、かなり深く)考え込んでしまう事です。

知的障害や重症心身障害、あるいは超重症児だとか遷延性意識障害等といわれてしまう彼女・彼らの「暮らし」「生き様」「生活」は「どうやったん?(どうなんだろう?)」「どうなん?」と。私たち支援者等という(あるいはいわれる)者たちがせっせとこさえた(作った)「地域」の中で、本当に彼女・彼等は「どうやったん?」「どうなん?」と問い続ける(自らにも)毎日です。

もう少し自らのことを語らせていただくと、先に記した衝撃的な生活様式に出会うきっかけになったのは、私の母が突然に「幻聴・幻覚」(今でこそこんな言葉も使いますが、当時=私も若かった^^;頃は、そんな言葉すら知りませんでした)という世界(?)に踏み込んだ(?)からだったりします。当時の私にとってはまさに「未知の世界」というよりも「不可解極まりない世界」だったように思います。それでもそんな「世界」を知りたいと思った当時の自分を(まあまあ)「けったいなやっちゃなあ」(注…「けったい」は褒め言葉にも使います^^;)と思っています。

そんな自らの(思想や性格?)の背景にあるのは、やはり自分が在日朝鮮人の3世であったこと(今も変わらないのですが^^;)なのかと思いながら様々なことを思う訳です(語りだすと止まらないので語りません^^;)。

「地域生活を考えよー」…、何が言いたい?私??…、なんですが、ぜひみなさんには「あなたの地域は何処ですか?」ということと、私たちが関わらせていただいている方々に向けて「彼女・彼等(あなた方)の地域は此処ですか?」と問い続けてほしいなあと思ったりしています。

時代はめまぐるしく変化してきたように思います。私自身は冒頭でも記したように切り開いた感は無いのですが、翻弄され(まくりで情けなかつたりもするのですが)ながらも、なんとか「捨てたもんやない」あるいは「捨てない」自らの(と言っても当たり前)に多くの方々のおかげで「生活」(暮らし・生き様)が(なんとか)できているようにも思います。この先の5年・10年、いろんな予測や予言なんかも有り得るのかも知れませんが、明確に解る訳はありません(たぶん)。

これからも揺れ動く時代の中で、私たちは如何に「おもろがる」「おもろがれる」かが大切だと思っています。そうして「おもろがり」ながら多くの方々と「むにゅむにゅ」っと染み渡りあえるような、そんな時代、あるいは「地域」を創っていきたいもんです。決して「なんとかモデル」とか「理想の地域像」なんぞではないものを(それはどんなんや!?)と言われても解りません^^;)、と。

「あなたの地域は何処ですか?」、「あなたの地域は此処ですか?」…、愛する方々に、自らに、問い続けたいもんです、いつまでも。そんなんで、「地域生活を考えよー!」「ラーっ!!」。

<http://www.kangaeyo-kai.net/>